



本 建 第 97 号
平成19年 4月26日

国土交通省道路局長 殿

本部町長 高良文



中期的な計画の作成にあたってのご意見の提出について (回答)

平成19年4月2日付け、国道企第114号で依頼のありました、標記について別紙のとおり回答いたします。

中期計画作成についての意見(本部町)

■ 重点化を進めるうえで特に優先度の高い政策

1) 幹線道路の整備

- ・ 当町の幹線道路である国道449号は以前から4車化を図ってきているところだが、一部港湾区域に架かる橋梁において4車化できない状況であるため、港湾事業等多分野と積極的に連携することにより早期に全線の4車化を実現し観光拠点へのアクセスの向上を図るべきである。
- ・ 本部半島を考えたときに国道449号とともに国道505号についても4車化あるいは、付加車線(現道をグレードアップ等)を図り半島1週道路を構築することにより道路ネットワークを強化し半島の観光支援・活性化を図るべきである。

■ 効率化を徹底的に進めるうえで重視すべきこと

1) 既存道路の有効活用

- ・ 新規の道路の構築は環境に配慮した計画として欲しい。また、既存の道路のグレードアップを図ることで地域の道路ネットワークを強化するべきである。
- ・ 例えば既存の2車線道路である名護一本部線については交差点における直進車と右左折車の混在や、バスの乗り降り時の停車が著しい渋滞を招いていることから、右左折車線設置等による交差点改良やバス停のバスベイ化を図る等の対策により幹線道路としての機能を改善し、地域連携の向上を図り地域の活性化を支援するべきである。
- ・ 観光支援の観点から、駐車スペースを確保した観光スポットや適切な追い越し車線の設置、及び植栽管理の充実等を図る必要がある。

■ その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

- ・ 昨今当町においては道路の維持管理費の不足が深刻で、夜間時の道路照明さえ費用が捻出できないことから中止することを検討している状況である。道路は作るだけでなく適切な管理がより重要だと考えられることから管理をみこした道路整備を行うべきである。
- ・ 安全・安心の観点からも道路特定財源を交付金とは別に道路の維持管理にあててはどうか、また他の分野との積極的な連携という意味も含めて地域産業道路の管理にも充当できるよう複合予算化等を検討できないか。
- ・ 鉄軌道がなく、観光に関連した交通が特徴的な沖縄に適したメリハリのある道路整備を行っていく必要がある。